病 院 事 業 会 計

第１　予算執行状況

１　収益的収入及び支出

（１）収益的収入

（単位　円、％）

区分＼項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増　減 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)
医　業　収　益	11,646,603,000	11,232,571,006	△ 414,031,994	96.4
医業外収益	1,782,304,000	2,299,672,520	517,368,520	129.0
特　別　利　益	3,001,000	3,197,717	196,717	106.6
合　　計	13,431,908,000	13,535,441,243	103,533,243	100.8

収益的収入の予算執行率は、100.8％です。

医業収益の主なものは、入院収益65億3,614万円、外来収益40億7,502万円です。

医業外収益の主なものは、国県補助金10億7,841万円、資本費繰入収益5億902万円、他会計補助金3億5,814万円です。

特別利益は、過年度損益修正益319万円です。

（２）収益的支出

（単位　円、％）

区分＼項目	予算額 (A)	うち予備費支出額	決算額 (B)	不用額 (A)-(B)	執行率 (B)/(A)
医　業　費　用	13,372,683,000	0	12,811,492,287	561,190,713	95.8
医業外費用	135,890,000	0	133,323,419	2,566,581	98.1
特　別　損　失	10,001,000	0	2,416,199	7,584,801	24.2
予　備　費	10,000,000	0	0	10,000,000	0.0
合　　計	13,528,574,000	0	12,947,231,905	581,342,095	95.7

収益的支出の予算執行率は、95.7％です。

医業費用の主なものは、給与費65億5,576万円、材料費30億7,395万円、経費23億2,178万円です。

医業外費用の主なものは、長期前払消費税償却額6,189万円、支払利息及び企業債取扱諸費5,540万円です。

特別損失は、過年度損益修正損241万円です。

2　資本的収入及び支出

（1）資本的収入

（単位　円、%）

区分＼項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増　減 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)
企　業　債	967,000,000	864,500,000	△102,500,000	89.4
負　担　金	36,789,000	36,788,899	△101	100.0
寄　附　金	11,001,000	9,809,558	△1,191,442	89.2
投資返還金	530,351,000	530,351,677	677	100.0
補　助　金	0	1,903,000	1,903,000	－
合　計	1,545,141,000	1,443,353,134	△101,787,866	93.4

資本的収入の予算執行率は、93.4%です。

収入の主なものは、企業債8億6,450万円、投資返還金5億3,035万円です。

（2）資本的支出

（単位　円、%）

区分＼項目	予算額 (A)	決算額 (B)	繰越額 (C)	不用額 (A)-(B)-(C)	執行率 (B)/(A)
建設改良費	1,038,558,000	907,100,492	65,095,000	66,362,508	87.3
償　還　金	1,807,376,000	1,807,235,978	0	140,022	100.0
合　計	2,845,934,000	2,714,336,470	65,095,000	66,502,530	95.4

資本的支出の予算執行率は、95.4%です。

支出の内訳は、償還金18億723万円、建設改良費9億710万円です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額12億7,098万円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額126万円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額212万円及び現年度分損益勘定留保資金12億6,758万円で補填しています。

3　一般会計からの繰入金

（単位　円）

予算項目	説　明		繰　入　額		
			令和3年度	令和4年度	増　減
収益的収入	救急医療		428,292,977	415,488,000	△12,804,977
	保健衛生行政に要する経費		22,469,000	29,953,000	7,484,000
	研究研修費		11,854,548	15,684,373	3,829,825
	地方公務員共済組合長期給付追加費用		49,927,416	42,012,432	△7,914,984
	基礎年金拠出金公的負担金		170,334,002	172,371,913	2,037,911
	児童手当		31,905,000	28,265,000	△3,640,000
	院内保育所に係る経費		17,243,622	16,270,811	△972,811
	減収対策債利息		0	27,409	27,409
	企業債償還利息		36,419,000	32,721,445	△3,697,555
	リハビリ		25,293,687	16,791,996	△8,501,691
	小児医療		57,925,000	32,141,000	△25,784,000
	高度医療経費		105,839,048	97,508,189	△8,330,859
	医師確保対策に関する経費		4,615,503	0	△4,615,503
	企業債償還元金		423,719,472	509,026,592	85,307,120
	産婦人科連携負担金		3,184,111	3,170,299	△13,812
	一般会計補助金（基準外）	（防疫手当等）	78,480,980	83,511,149	5,030,169
	小　計		1,467,503,366	1,494,943,608	27,440,242
資本的収入	一般会計負担金（企業債償還元金）		35,787,249	36,788,899	1,001,650
	一般会計補助金（基準外）		1,180,000	0	△1,180,000
	小　計		36,967,249	36,788,899	△178,350
合　計			1,504,470,615	1,531,732,507	27,261,892

病院事業会計に対する一般会計からの繰入金の総額は15億3,173万円で、前年度より2,726万円増加しています。

これは主に、小児医療が2,578万円、救急医療が1,280万円、リハビリが850万円、高度医療経費が833万円、地方公務員共済組合長期給付追加費用が791万円、医師確保対策に関する経費が461万円減少したものの、企業債償還元金が8,530万円、保健衛生行政に要する経費が748万円、一般会計補助金（防疫手当等）が503万円増加したことによるものです。

繰入金に係る比率等は、次表のとおりです。

（単位　%、円）

分析項目	算　式	令和3年度	令和4年度	全国平均 令和3年度
他会計繰入金対経常収益比率	$\frac{\text{他会計繰入金(収益的収入)}}{\text{経常収益}} \times 100$	8.1	7.3	8.6
他会計繰入金対医業収益比率	$\frac{\text{他会計繰入金(収益的収入)}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.7	8.8	11.0
他会計繰入金対資本的収入比率	$\frac{\text{他会計繰入金(資本的収入)}}{\text{資本的収入}} \times 100$	1.8	2.5	42.6
一床当たり繰入金	$\frac{\text{他会計繰入金(合計)}}{\text{年度末病床数}}$	3,450,621	3,513,148	－

第２　経営成績

１　業務実績

区分 ＼ 年度		3 (A)	4 (B)	前年度比較 (B)－(A)	3 全国平均
年度末病床数　(床)		436	436	0	238
年延患者数 (人)	入院	96,136	93,286	△ 2,850	58,280
	外来	215,425	218,972	3,547	106,088
	計	311,561	312,258	697	164,368
１日平均患者数 (人)	入院	263	256	△ 7	160
	外来	883	894	11	424
	計	1,146	1,150	4	584
病床利用率　(%)		60.4	58.6	△ 1.8	68.0
外来入院患者比率　(%)		224.1	234.7	10.6	182.0
百床当たり職員数 (人)	医師	(81) 27.3	(77) 27.1	(△4) △ 0.2	23.5
	看護部門	(378) 123.2	(366) 100.9	(△12) △ 22.3	91.4
	薬剤部門	(27) 8.0	(28) 7.3	(1) △ 0.7	4.7
	事務部門	(27) 9.9	(27) 32.8	(0) 22.9	18.6
	給食部門	(6) 1.8	(6) 1.4	(0) △ 0.4	2.6
	放射線部門	(23) 5.7	(23) 5.3	(0) △ 0.4	4.4
	臨床検査部門	(30) 9.4	(30) 8.3	(0) △ 1.1	5.9
	その他部門	(36) 10.3	(36) 10.6	(0) 0.3	15.0
	計	(608) 195.6	(593) 193.7	(△15) △ 1.9	166.1

（注）１　本市各区分数値の算出方法等

(1) １日平均患者数は、入院の診療日数365日、外来の診療日数245日で計算しています。（3年度は入院365日、外来244日）

(2) 病床利用率は、年延入院患者数／年延病床数×100

(3) 外来入院患者比率は、年延外来患者数／年延入院患者数×100

(4) (　)内数字は、年度末職員数で会計年度任用職員等は含んでいません。

(5) 百床当たり職員数は県市町振興課へ報告した「地方公営企業決算の状況」より引用していますので、会計年度任用職員等を常勤職員に換算した人数が含まれています。

２　全国平均は地方公営企業年鑑に記載された数値を引用していますので、上記本市の算出方法により単純に計算すると結果が一致しないものがあります。

なお、病床利用率は、一般病床の率です。

年延患者数は312,258人で、前年度の311,561人より697人増加しています。

これは、入院患者が2,850人減少したものの、外来患者が3,547人増加したことによるものです。

１日平均の患者数は、入院で256人、外来で894人であり、１日平均の入院外来患者合計は1,150人です。

当年度病床利用率は 58.6%で、前年度より1.8ポイント減少しています。外来入院患者比率は234.7%です。病床百床あたりの職員数は、193.7人で、前年度の195.6人より、1.9人減少しています。

当年度の患者数を各科別にみると、次表のとおりです。

（単位　人）

区分 / 科名	入院		外来		対前年度増減	
	令和３年度	令和４年度	令和３年度	令和４年度	入院	外来
内科	506	1,571	4,412	4,078	1,065	△ 334
小児科	901	706	5,319	6,059	△ 195	740
外科	6,824	6,433	6,934	6,689	△ 391	△ 245
整形外科	15,681	14,500	17,140	16,787	△ 1,181	△ 353
リハビリテーション科	0	0	638	519	0	△ 119
皮膚科	2,079	2,245	17,763	19,006	166	1,243
泌尿器科	6,160	5,157	17,491	16,052	△ 1,003	△ 1,439
産婦人科	0	0	1,588	1,425	0	△ 163
眼科	1,807	1,811	11,263	11,181	4	△ 82
耳鼻いんこう科	2,305	1,857	11,985	11,995	△ 448	10
放射線診断科	0	0	1,752	1,981	0	229
放射線治療科	0	0	5,862	6,159	0	297
麻酔科	0	0	79	98	0	19
脳神経外科	3,614	5,939	2,511	2,532	2,325	21
心臓血管外科	0	0	9	0	0	△ 9
心療内科	0	0	715	672	0	△ 43
歯科口腔外科	820	819	9,813	11,231	△ 1	1,418
循環器内科	3,828	3,702	9,233	9,414	△ 126	181
消化器内科	13,744	11,817	24,406	24,823	△ 1,927	417
呼吸器内科	8,138	7,440	9,367	10,115	△ 698	748
呼吸器外科	1,051	718	1,054	1,012	△ 333	△ 42
腎臓内科	2,513	2,238	11,986	12,384	△ 275	398
緩和ケア内科	564	2,409	142	371	1,845	229
形成外科	2,342	1,884	5,858	4,872	△ 458	△ 986
血液内科	9,841	8,631	6,820	7,132	△ 1,210	312
リウマチ科	1,762	2,312	9,757	10,078	550	321
腫瘍内科	5,045	3,723	6,417	5,962	△ 1,322	△ 455
糖尿病内科	880	782	3,464	3,819	△ 98	355
乳腺外科	837	662	4645	5,072	△ 175	427
救急科	4,894	5,930	7,002	7,454	1,036	452
計	96,136	93,286	215,425	218,972	△ 2,850	3,547

2　損益計算書

（単位　円、％）

区分 / 年度	総収益		総費用		差引損益	総収支
	金額 (A)	前年度比	金額 (B)	前年度比	(A)-(B)	比率 (A)/(B)
2	13,042,261,769	104.4	12,882,197,161	102.7	160,064,608	101.2
3	12,950,744,744	99.3	12,584,134,349	97.7	366,610,395	102.9
4	13,506,709,341	104.3	12,919,737,913	102.7	586,971,428	104.5

当年度の総収支比率は104.5％で、5億8,697万円の純利益を計上しました。

医業損益（医業収益から医業費用を差し引いたもの）は11億2,883万円の損失で、損失額は前年度より1億4,441万円減少しています。経常損益（医業収益及び医業外収益の合計から、医業費用及び医業外費用を差し引いたもの）は5億8,612万円の利益となっており、前年度より2億992万円改善しています。

なお、前年度繰越利益剰余金7億3,352万円に当年度純利益5億8,697万円を加えて、当年度未処分利益剰余金は13億2,049万円となります。

（1）総収益

（単位　円、％）

区分 / 年度	3 (A)	4 (B)	対前年度増減額 (B)-(A)	前年度比 (B)/(A)
医業収益	10,763,998,405	11,213,903,438	449,905,033	104.2
医業外収益	2,181,745,910	2,289,608,841	107,862,931	104.9
特別利益	5,000,429	3,197,062	△ 1,803,367	63.9
合計	12,950,744,744	13,506,709,341	555,964,597	104.3

ア　医業収益

総収益に占める割合は83.0％です。

医業収益は112億1,390万円で、前年度より4億4,990万円増加しています。

これは主に、入院収益が3億4,272万円、外来収益が7,682万円増加したことによるものです。

その他医業収益の主なものは、一般会計負担金4億4,544万円、室料差額収益7,010万円です。

なお、入院外来収益を各科別にみると、次表のとおりです。

（単位　円）

科　名	年度	入　院	外　来	合　計
内　　科	3	59,465,397	28,685,051	88,150,448
	4	170,020,717	24,952,984	194,973,701
	増減	110,555,320	△ 3,732,067	106,823,253
小　児　科	3	54,051,724	60,510,600	114,562,324
	4	45,912,536	68,719,904	114,632,440
	増減	△ 8,139,188	8,209,304	70,116
外　　科	3	538,943,125	82,900,678	621,843,803
	4	572,671,555	78,401,750	651,073,305
	増減	33,728,430	△ 4,498,928	29,229,502
整形外科	3	990,443,000	125,166,989	1,115,609,989
	4	985,911,396	119,869,196	1,105,780,592
	増減	△ 4,531,604	△ 5,297,793	△ 9,829,397
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	3	0	2,414,533	2,414,533
	4	0	1,875,354	1,875,354
	増減	0	△ 539,179	△ 539,179
皮　膚　科	3	89,620,144	117,537,487	207,157,631
	4	112,063,869	137,056,436	249,120,305
	増減	22,443,725	19,518,949	41,962,674
泌尿器科	3	384,062,289	264,070,759	648,133,048
	4	361,023,934	245,223,632	606,247,566
	増減	△ 23,038,355	△ 18,847,127	△ 41,885,482
産婦人科	3	0	15,222,859	15,222,859
	4	0	13,532,766	13,532,766
	増減	0	△ 1,690,093	△ 1,690,093
眼　　科	3	147,911,848	113,565,082	261,476,930
	4	155,738,792	109,205,536	264,944,328
	増減	7,826,944	△ 4,359,546	3,467,398
耳鼻いんこう科	3	149,243,416	115,858,567	265,101,983
	4	154,194,206	107,696,798	261,891,004
	増減	4,950,790	△ 8,161,769	△ 3,210,979
放射線診断科	3	0	43,674,589	43,674,589
	4	0	48,865,812	48,865,812
	増減	0	5,191,223	5,191,223
麻　酔　科	3	0	61,410	61,410
	4	0	77,724	77,724
	増減	0	16,314	16,314
脳神経外科	3	240,535,758	29,179,328	269,715,086
	4	394,488,974	30,638,655	425,127,629
	増減	153,953,216	1,459,327	155,412,543
心臓血管外科	3	0	112,434	112,434
	4	0	0	0
	増減	0	△ 112,434	△ 112,434
心療内科	3	0	1,691,198	1,691,198
	4	0	1,385,264	1,385,264
	増減	0	△ 305,934	△ 305,934
歯科口腔外科	3	54,557,126	77,424,164	131,981,290
	4	60,357,290	83,746,412	144,103,702
	増減	5,800,164	6,322,248	12,122,412

（単位　円）

科　名	年度	入　院	外　来	合　計
循環器内科	3	259,013,681	97,155,352	356,169,033
	4	283,201,667	100,067,240	383,268,907
	増減	24,187,986	2,911,888	27,099,874
消化器内科	3	772,902,786	408,534,777	1,181,437,563
	4	736,476,879	431,488,291	1,167,965,170
	増減	△ 36,425,907	22,953,514	△ 13,472,393
呼吸器内科	3	439,085,171	345,736,964	784,822,135
	4	452,283,466	409,180,454	861,463,920
	増減	13,198,295	63,443,490	76,641,785
呼吸器外科	3	142,197,963	13,928,486	156,126,449
	4	124,818,168	12,487,617	137,305,785
	増減	△ 17,379,795	△ 1,440,869	△ 18,820,664
腎臓内科	3	113,755,790	251,306,865	365,062,655
	4	101,565,859	254,820,182	356,386,041
	増減	△ 12,189,931	3,513,317	△ 8,676,614
緩和ケア内科	3	39,843,439	177,703	40,021,142
	4	124,735,759	286,886	125,022,645
	増減	84,892,320	109,183	85,001,503
形成外科	3	118,350,820	36,119,100	154,469,920
	4	105,424,401	30,392,489	135,816,890
	増減	△ 12,926,419	△ 5,726,611	△ 18,653,030
総合内科	3	0	17,714,517	17,714,517
	4	0	16,325,785	16,325,785
	増減	0	△ 1,388,732	△ 1,388,732
血液内科	3	723,480,390	372,764,778	1,096,245,168
	4	764,487,012	433,157,907	1,197,644,919
	増減	41,006,622	60,393,129	101,399,751
リウマチ科	3	94,756,245	231,516,818	326,273,063
	4	132,516,782	225,880,283	358,397,065
	増減	37,760,537	△ 5,636,535	32,124,002
腫瘍内科	3	315,490,447	668,256,501	983,746,948
	4	230,245,602	536,369,003	766,614,605
	増減	△ 85,244,845	△ 131,887,498	△ 217,132,343
糖尿病内科	3	36,951,195	46,928,860	83,880,055
	4	32,836,300	52,638,545	85,474,845
	増減	△ 4,114,895	5,709,685	1,594,790
放射線治療科	3	0	206,788,900	206,788,900
	4	0	217,090,818	217,090,818
	増減	0	10,301,918	10,301,918
乳腺外科	3	59,505,019	152,756,595	212,261,614
	4	60,784,220	179,419,542	240,203,762
	増減	1,279,201	26,662,947	27,942,148
救急科	3	368,624,246	68,371,339	436,995,585
	4	373,759,453	102,102,006	475,861,459
	増減	5,135,207	33,730,667	38,865,874
計	3	6,192,791,019	3,996,133,283	10,188,924,302
	4	6,535,518,837	4,072,955,271	10,608,474,108
	増減	342,727,818	76,821,988	419,549,806

イ　医業外収益

総収益に占める割合は17.0％です。

医業外収益は22億8,960万円で、前年度より1億786万円増加しています。

これは主に、他会計負担金が4,631万円、寄附金が1,131万円減少したものの、資本費繰入収益が8,530万円、国県補助金が7,694万円増加したことによるものです。

ウ　特別利益

総収益に占める割合は0.0％です。

特別利益は319万円で、前年度より180万円減少しています。これは、過年度損益修正益が25万円増加したものの、固定資産売却益が206万円(皆減)減少したことによるものです。

（２）総費用

（単位　円、％）

区分＼年度	3 (A)	4 (B)	対前年度増減額 (B)－(A)	前年度比 (B)／(A)
医　業　費　用	12,037,253,865	12,342,741,085	305,487,220	102.5
医　業　外　費　用	532,291,706	574,644,517	42,352,811	108.0
特　別　損　失	14,588,778	2,352,311	△ 12,236,467	16.1
合　計	12,584,134,349	12,919,737,913	335,603,564	102.7

ア　医業費用

総費用に占める割合は95.5％です。

医業費用は123億4,274万円で、前年度より3億548万円増加しています。

これは主に、給与費が605万円減少したものの、経費が1億2,983万円、材料費が1億1,574万円、減価償却費が4,170万円増加したことによるものです。

イ　医業外費用

総費用に占める割合は4.4％です。

医業外費用は5億7,464万円で、前年度より4,235万円増加しています。

これは主に、支払利息及び企業債取扱諸費が602万円減少したものの、雑支出が4,333万円増加したことによるものです。

雑支出の主なものは、非課税売上に係る仮払消費税4億5,734万円です。

ウ　特別損失

総費用に占める割合は0.0％です。

特別損失は235万円で、前年度より1,223万円減少しています。

これは主に、固定資産売却損が 828 万円（皆減)、過年度損益修正損が 322 万円減少したことによるものです。

（３）性質別費用

総費用を性質別に分類し、前年度と比較すると次表のとおりです。

（単位　円、％）

区分＼年度	3 (A)	4 (B)	対前年度増減額 (B)-(A)	前年度比 (B)/(A)
給与費	6,556,316,436	6,550,265,511	△ 6,050,925	99.9
材料費	2,678,013,567	2,793,758,247	115,744,680	104.3
報償費	294,721,577	283,833,460	△ 10,888,117	96.3
光熱水費	199,465,484	272,507,187	73,041,703	136.6
修繕費	69,934,803	114,359,740	44,424,937	163.5
賃借料	150,017,454	145,189,041	△ 4,828,413	96.8
委託料	1,153,514,038	1,176,849,284	23,335,246	102.0
減価償却費	749,391,147	791,096,462	41,705,315	105.6
支払利息及び企業債取扱諸費	61,434,478	55,405,799	△ 6,028,679	90.2
雑支出	414,005,835	457,341,120	43,335,285	110.5
過年度損益修正損	5,577,211	2,352,311	△ 3,224,900	42.2
その他	251,742,319	276,779,751	25,037,432	109.9
合計	12,584,134,349	12,919,737,913	335,603,564	102.7

性質別費用の主な増は、材料費が1億1,574万円、光熱水費が7,304万円、修繕費が4,442万円、雑支出が4,333万円、減価償却費が4,170万円です。

主な減は、報償費が1,088万円、給与費が605万円、支払利息及び企業債取扱諸費が602万円、賃借料が482万円です。

3　経営分析

（単位　円、人、％）

区分 ＼ 年度		3 (A)	4 (B)	前年度比較 (B)-(A)
患者１人１日当たり医業収益		34,549	35,912	1,363
患者１人１日当たり医業費用		38,635	39,527	892
〃　（減価償却費等を除く）		36,166	36,874	708
患者１人１日当たり診療収入	入院	64,417	70,059	5,642
	外来	18,550	18,600	50
	全体	32,703	33,973	1,270
職員１人当たり医業収益		12,618,990	13,286,615	667,625
職員１人１日当たり患者数	入院	0.3	0.3	0.0
	外来	1.0	1.1	0.1
	計	1.3	1.4	0.1
医業費用に占める割合	給与費	54.5	53.1	△ 1.4
	材料費	22.2	22.6	0.4
医業収益に占める給与費の割合		60.9	58.4	△ 2.5

（注）患者１人１日当たり医業収益又は費用　…　医業収益又は医業費用／入院外来年延患者数

患者１人１日当たり診療収入　…　入院又は外来収入／入院又は外来年延患者数

職員１人当たり医業収益　…　医業収益／損益勘定所属職員数（3年度は853人、4年度は844人）

職員１人１日当たり患者数　…　入院又は外来年延患者数／損益勘定所属職員数／入院365日又は外来245日

（3年度は入院365日又は外来244日）

なお、損益勘定所属職員数は県市町振興課に報告した「地方公営企業決算の状況」の数値です。

患者１人１日当たり医業収益は35,912円、医業費用は39,527円で、差引き3,615円の損失となっています。ちなみに、現金支出を伴わない減価償却費等を除いた医業費用は36,874円となり、差引き962円の損失となっています。

患者１人１日当たり診療収入は、入院で70,059円、外来で18,600円、全体で33,973円です。

経営分析指標の一つである医業収益に占める給与費の割合は58.4％です。

なお、薬品使用効率をみると次表のとおりです。

（単位　％）

分析項目 ＼ 年度	3	4	全国平均 3
投薬収入 / 投薬薬品払出原価 × 100	118.2	105.9	105.3
注射収入 / 注射薬品払出原価 × 100	115.0	109.8	98.5
計　薬品収入 / 薬品払出原価 × 100	115.3	109.3	99.9

第３　財政状態

１　貸借対照表

（１）　資　産

（単位　円、％）

区分＼年度	3 (A)	4 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
固定資産	12,456,110,882	11,998,853,781	△ 457,257,101	96.3
流動資産	2,221,200,268	2,986,648,601	765,448,333	134.5
合　計	14,677,311,150	14,985,502,382	308,191,232	102.1

資産は149億8,550万円で、前年度より3億819万円増加しています。

ア　固定資産

固定資産は119億9,885万円で、前年度より4億5,725万円減少しています。

これは主に、器械備品が2億9,604万円増加したものの、長期未収金が4億6,607万円、建物が2億9,291万円減少したことによるものです。

イ　流動資産

流動資産は29億8,664万円で、前年度より7億6,544万円増加しています。

これは主に、前払金が431万円減少したものの、未収金が4億7,983万円、現金預金が2億8,501万円増加したことによるものです。

なお、当年度末未収金の23億4,553万円に対し、債権の貸倒れによる損失に備えるために貸倒引当金を113万円計上しています。

また、未収金の内訳は次表のとおりです。

（単位　円、％）

区分＼年度		3 (A)	4 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	医業収益に対する割合	
					3	4
	診療報酬	1,442,244,512	1,758,930,340	316,685,828	13.4	15.7
	患者自己負担金	53,793,785	54,001,135	207,350	0.5	0.5
	その他	12,387,557	17,608,260	5,220,703	0.1	0.2
医業未収金		1,508,425,854	1,830,539,735	322,113,881	14.0	16.3
医業外未収金		278,792,513	498,815,659	220,023,146	－	－
その他未収金		78,769,000	16,180,189	△ 62,588,811	－	－
合　計		1,865,987,367	2,345,535,583	479,548,216	－	－

医業未収金のうち診療報酬は17億5,893万円で、これは主に、令和５年２月及び３月の請求分です。患者自己負担金は5,400万円、その他は1,760万円です。なお、

令和５年６月末日の残額は、診療報酬が180万円、患者自己負担金が519万円、その他が70万円となっています。

医業外未収金は4億9,881万円、その他未収金は1,618万円です。

なお、過年度滞納繰越金のうち消滅時効が完成したもの、自己破産等により回収不能となった11件、65万円について、不納欠損処分を行っています。

（２）　負　債

（単位　円、％）

区分＼年度	3 (A)	4 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
固 定 負 債	6,904,488,068	6,752,150,577	△ 152,337,491	97.8
流 動 負 債	3,317,170,980	3,192,498,199	△ 124,672,781	96.2
繰 延 収 益	349,525,474	310,966,651	△ 38,558,823	89.0
合　　計	10,571,184,522	10,255,615,427	△ 315,569,095	97.0

負債は102億5,561万円で、前年度より3億1,556万円減少しています。

ア　固定負債

固定負債は67億5,215万円で、前年度より1億5,233万円減少しています。

これは主に、退職給付引当金が2,940万円増加したものの、企業債（固定負債）が1億7,574万円減少したことによるものです。

イ　流動負債

流動負債は31億9,249万円で、前年度より1億2,467万円減少しています。

これは主に、未払金が6億2,336万円、企業債（流動負債）が3,301万円増加したものの、他会計借入金（流動負債）が8億円減少したことによるものです。

なお、企業債については、１年を超えて償還されるものは固定負債に、１年以内に償還されるものは流動負債に計上されます。

ウ　繰延収益

繰延収益は3億1,096万円で、前年度より3,855万円減少しています。

（３）　資　本

（単位　円、％）

区分＼年度	3 (A)	4 (B)	対前年度末増減額 (B)-(A)	前年度末比 (B)/(A)
資　本　金	2,816,580,496	2,816,580,496	0	100.0
剰　余　金	1,289,546,132	1,913,306,459	623,760,327	148.4
合　　計	4,106,126,628	4,729,886,955	623,760,327	115.2

資本は47億2,988万円で、前年度より6億2,376万円増加しています。

ア　資本金

資本金は28億1,658万円で、前年度と同額となっています。

イ　剰余金

剰余金は19億1,330万円で、前年度より6億2,376万円増加しています。

これは主に、利益剰余金が5億8,697万円増加したことによるものです。

2　キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書の状況は、次表のとおりです。

（単位　円）

		令和3年度	令和4年度	対前年度増減
1　業務活動によるキャッシュ・フロー				
	材料の購入による支出	△ 2,634,215,378	△ 2,304,552,805	329,662,573
	人件費支出	△ 6,525,912,527	△ 6,413,946,086	111,966,441
	医業収入	10,273,030,666	10,740,644,038	467,613,372
	負担金、補助金等収入	1,052,231,550	965,349,994	△ 86,881,556
	国庫負担金等による収入	1,048,257,407	631,624,731	△ 416,632,676
	その他業務収入	119,584,766	70,507,405	△ 49,077,361
	その他業務支出	△ 2,684,611,295	△ 3,281,193,787	△ 596,582,492
	小　計	648,365,189	408,433,490	△ 239,931,699
	利息の受取額	3,311	6,702	3,391
	利息の支払額	△ 61,434,478	△ 55,405,799	6,028,679
	業務活動によるキャッシュ・フロー	586,934,022	353,034,393	△ 233,899,629
2　投資活動によるキャッシュ・フロー				
	有形固定資産の取得による支出	△ 784,947,773	△ 210,777,519	574,170,254
	有形固定資産の売却による収入	2,060,000	0	△ 2,060,000
	一般会計からの繰入金による収入	430,885,771	545,815,491	114,929,720
	寄付による収入	12,534,820	9,809,558	△ 2,725,262
	退職手当組合負担金調整額による収入	917,429,301	530,351,677	△ 387,077,624
	投資活動によるキャッシュ・フロー	577,962,119	875,199,207	297,237,088
3　財務活動によるキャッシュ・フロー				
	一時借入れによる収入	8,000,000,000	4,800,000,000	△ 3,200,000,000
	一時借入金の返済による支出	△ 9,100,000,000	△ 4,800,000,000	4,300,000,000
	建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	700,900,000	864,500,000	163,600,000
	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 834,532,597	△ 1,005,268,911	△ 170,736,314
	その他の企業債の償還による支出	0	△ 1,967,067	△ 1,967,067
	他会計借入金による収入	300,000,000	0	△ 300,000,000
	他会計借入金の返済による支出	△ 300,000,000	△ 800,000,000	△ 500,000,000
	リース債務の返済による支出	0	△ 485,800	△ 485,800
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,233,632,597	△ 943,221,778	290,410,819
資金増加額		△ 68,736,456	285,011,822	353,748,278
資金期首残高		283,265,017	214,528,561	△ 68,736,456
資金期末残高		214,528,561	499,540,383	285,011,822

資金期末残高は4億9,954万円で、前年度より2億8,501万円増加しています。

第４　意見及び指摘事項

１　経営状況について

当年度決算は、総収益が135億670万円、総費用が129億1,973万円で、差引き5億8,697万円の当年度純利益（前年度純利益3億6,661万円）が生じています。その結果、当年度未処分利益剰余金は、前年度からの繰越利益剰余金7億3,352万円を加えて13億2,049万円となりました。

収益面では、医業収益について、前年度の収益と比較すると4億4,990万円増加しています。これは、入院収益が3億4,272万円、外来収益が7,682万円、その他医業収益が3,035万円増加したことによるものです。また、資本費繰入収益8,530万円の増加を含めた医業外収益が1億786万円増加した一方、特別利益が180万円減少し、事業収益全体では差引き5億5,596万円の増加となっています。費用面では、医業費用について、前年度の費用と比較すると3億548万円増加しています。これは、給与費が605万円減少したものの、経費が1億2,983万円、材料費が1億1,574万円増加したことなどによるものです。また、医業外費用が4,235万円増加、特別損失が1,223万円減少したことで、事業費用全体で3億3,560万円の増加となっています。以上のことから、当年度純利益は5億8,697万円となり、前年度と比較すると2億2,036万円増加しています。医業収支だけでみると、当年度11億2,883万円の損失となるものの、前年度より1億4,441万円改善されています。

新型コロナウイルス感染症による令和４年度収支への影響について、「外来収益は前年度より増加したが、入院治療や救急医療等を制限せざるを得ない状況が続いたことから、一日平均入院患者数は前年度より7.8人減少した。このことによって入院収益が8億1,560万円（（想定入院患者数288人/日－決算入院患者数255.6人/日）×平均単価68,967円×365日）落ち込み、それに係る材料費が2億1,695万円（入院収益8億1,560万円×材料費比率26.6％）減少した。また、新型コロナウイルス感染症対応に係る医療従事者への防疫手当が6,585万円発生したことにより、収支は6億6,450万円の悪化となりますが、それに対し、新型コロナウイルス感染症関連補助金（以下「コロナ補助金」という。）として国、県及び市から11億3,203万円受け入れた。」旨の説明を受けました。これらの結果、仮に新型コロナウイルス感染症がなかったとすれば差引き4億6,753万円の利益の減少が見込まれることとなります。令和２年度以降、コロナ補助金の受入れが収支の黒字化に大きく寄与してきましたが、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行に伴い、市立病院では令和５年６月以降、新型コロナウイルス感染症専用病棟である重点医療機関から一般医療機関に変更したこと

から、コロナ補助金の受入れがなくなりました。

令和４年度における１日当たりの入院患者数は255.6人（令和３年度263.4人、令和２年度296.6人）と減少傾向にありますが、医業収支改善のためには入院患者数を増加させることが必須であると考えます。令和４年度においては、看護師不足により４階西病棟53床を閉鎖していましたが、医業収益を確保するためにも４階西病棟の早期再開等、稼働病床の拡大に向けて看護師の確保に取り組んでください。

一方、入院患者１人１日当たりの診療収入（「以下「入院単価」という。」は68,967円（令和３年度64,417円、令和２年度59,432円）とＤＰＣ入院期間Ⅰ・Ⅱ期（全国平均入院日数以内）の入院期間率が67.4％に向上（令和３年度66.4％、令和２年度59.8％）したこと等により、前年度に続いて改善していることは評価できますが、令和４年度宝塚市病院事業会計決算書では令和４年度の入院単価を70,059円としており、令和３年度における新型コロナウイルス感染症に係る入院診療報酬1億188万円が令和４年度の入院収益に含めて計算されていました。しかし、診療報酬の請求が令和４年度になってから行われたとしても、令和３年度に係る診療行為であれば、令和４年度の入院収益に計上するのではなく過年度損益修正益として計上すべきであるし、入院単価についても令和３年度における新型コロナウイルス感染症に係る入院診療報酬を除いて計算した68,967円を令和４年度の入院単価とすべきであると考えます。また、令和３年度においては、令和３年度に収入すべきであった1億188万円を入院収益に加えて積算すると、入院単価は65,477円となります。

令和５年度中には、持続可能な経営基盤の強化に向けて、「宝塚市立病院が目指す病院像（以下「目指す病院像」という。）」を基に議論し、市立病院における最重要課題である経営改善を目指す「宝塚市立病院経営強化プラン（以下「経営強化プラン」という。）」が策定されます。また、築39年を経過した市立病院の新病院建設候補地決定に向けた準備調査が行われ、各候補地について課題等を整理した報告結果がとりまとめられることとなっています。

市立病院においては、持続可能な経営基盤の強化に向けた取組を着実に実行していくとともに、急性期医療を提供する地域の中核病院として、市民が真に必要とする医療を継続して提供できるよう、建替えに向けた議論を早期に進めてください。

２　病棟運営について

市立病院では、新型コロナウイルス感染症専用病棟への専属看護師の配置等により、病

院全体として看護師が不足する状況となった結果、令和４年度において合計260日間、４階西病棟53床を閉鎖しており、このことによる病院事業への影響額は8億4,677万円（53床×260日×令和４年度における実質利用可能病床287床を分母とした病床稼働率89.1％×入院単価68,967円）であった旨の説明を受けました。

新型コロナウイルス感染症の対応に当たっては、通常より手厚い看護師の配置が必要となることから、看護師が不足する状況になることは一定やむを得ないと考えますが、一方で、平成２７年５月策定の「宝塚市立病院定員適正化計画（平成２７年度から令和２年度まで）」（以下「適正化計画」という。）においては、看護師数が減少する内容となっており、適正化計画の見直しがされていないことも要因の１つではないかと考えます。

看護師数の推移は、次表のとおりです。

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
看護師数	412人	397人	378人	366人

各年度３月３１日現在の人数

最適な診療体制に必要な看護師数及び現状における看護師の過不足状況について確認したところ、「367床の病床稼働を目指しており、それには396人の看護師が必要である。令和５年７月１日現在の看護師数は361人であり、35人不足している状況であるが、令和５年度の派遣看護師に係る予算は2,880万円で、令和４年度よりも1,380万円の増加を見込んでおり、派遣看護師の増員により夜勤の看護師不足の解消に努める。また、令和６年度採用に向け、新卒22人、既卒８人を募集している。」旨の説明を受けました。

新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行に伴う影響及び対策については、「新型コロナウイルス感染症専用病棟である重点医療機関から一般医療機関に変更したことで、コロナ補助金の受入れがなくなるものの、同一病棟で新型コロナウイルス感染症患者及び一般患者を受け入れ、段階的に稼働病床数を増やすことで、入院患者の増加に努める。」旨の説明を受けました。

看護師を増員することで人件費は増加するが、それを上回る収益の改善効果が見込まれるのではないかと考えますので、派遣看護師の活用を含め、可能な限り早期に稼働病床を拡大できるよう看護師の確保に努めてください。

また、適正な職員定数については、令和５年度に策定予定の経営強化プランに基づき定めるとのことですが、各年度における病院事業の経営状況や職種ごとの業務実態を考慮しつつ、最適な診療体制を維持するために必要な職員数を慎重に決定し、その確保に努めて

ください。

３　診療報酬収入について

診療行為の中には、保険医療機関が一定の人員や設備を満たす必要があり、その施設基準を満たした旨を厚生労働省地方厚生局に届け出て初めて診療報酬点数の算定が可能となるものがあります。市立病院では一部情報収集が遅れたことや体制の整備に時間を要したことから、制度開始当初からの算定が行えていない加算項目がありましたが、令和４年度中に新たに施設基準を厚生労働省地方厚生局に届け出たことによって、次の加算項目について収入が増加しました。

項目	概要	収入増加額	算定開始年月	制度開始年月
看護職員処遇改善評価料	看護職員の賃金を３％程度引き上げるための処遇改善を診療報酬の枠組みを通して支援するもの。	28,615千円	令和４年１０月	令和４年１０月
感染対策向上加算１	地域の感染対策の牽引者となり加算２、３の病院やクリニック等とチームを構成し、地域全体の感染対策の水準向上を図ることを評価する。	16,000千円	令和４年４月	令和４年４月
夜間100対１急性期看護補助体制加算	看護職員の負担軽減、処遇改善のうち、夜間における看護補助者を一定数配置し夜間の看護業務の負担軽減を図ることを評価する。	21,360千円	令和５年１月	平成２４年４月
医師事務作業補助体制加算１（15対１）	病院勤務医の事務作業を補助する専従職員を一定数配置し、事務作業の負担軽減を図ることを評価する。	3,947千円	令和５年２月	平成２０年４月

※ 収入増加額は令和４年度中の額

今後は、これまで以上に新たな制度についての情報収集に努め、費用対効果を勘案しながら基準を満たすことが可能な加算項目については早期に体制を整えることで、より多くの収入確保に取り組んでください。

４　時間外勤務の状況について

令和４年度の時間外勤務が多い職員上位20人の状況を見ると、経営統括部の職員が６人、臨床工学室の職員が５人、薬剤部の職員が４人を占めており、１人当たり平均約430時間もの時間外勤務を行っています。

時間外勤務の主な理由について、「経営統括部については、電子カルテの更新業務、情報システムの保守対応、派遣看護補助者（12人）の確保業務等、臨床工学室については、週３回（月、水、金曜日）の２クールの透析業務に加え、緊急透析や緊急の心臓カテーテル業務、薬剤部については、発熱外来、帰国者接触者外来の患者対応に時間を要したことにより時間外勤務が発生した。特に時間外勤務が多い４人については、感染対策チーム、がん化学療法担当、中央業

務担当、病棟担当の主担当者であり、個々の業務量に偏りが出ている。」旨の説明を受けました。

システム更新や新型コロナウイルス感染症対応による業務量の増加及び緊急対応業務により、時間外勤務が発生することは一定やむを得ないと考えますが、同じ職員が毎年度上位を占め、時間外勤務が特定の職員に固定化されている状況については、抜本的な対策が必要と考えます。

また、１箇月の時間外勤務が147時間にも及ぶ職員がありました。これは臨時的な特別の事情があって労使が合意する場合においても上回ることができないとされる労働基準法の定める上限時間である月100時間未満を超過する状態となっており、職員の健康保持の観点からも再発防止の徹底が必要です。

職員一人ひとりの勤務状況を的確に把握し、業務の円滑な運営に必要な職員数の確保や職員相互間の業務の適正配分を行い、組織全体の課題として時間外勤務の削減に全力で取り組んでください。

５　資金不足額の解消について

本市では、令和３年度から令和１２年度までの10年間を対象期間とした資金不足等解消計画を策定していましたが、令和３年度及び令和４年度に締結された「退職手当組合負担金における各会計間の調整に関する変更協定書」に基づき、一般会計から投資返還金として令和３年度に8億3,866万円、令和４年度に4億5,158万円が繰り上げて支払われたことが大きな要因となり、資金不足が前倒しで解消されました。

令和４年度で資金不足は解消されましたが、令和３年度及び令和４年度の一般会計からの投資返還金がなかった場合、令和４年度の資金不足額は3億9,133万円、資金不足比率は3.4％となり、資金不足は解消されていませんでした。令和５年度以降は、一般会計からの投資返還金が繰り上げて支払われたことにより、今後、毎年度の歳入が6,451万円減少すること、また、新型コロナウイルス感染症が令和５年５月８日から５類感染症に移行されたことに伴い、コロナ補助金が減少する中で資金不足を発生させないためには、「宝塚市立病院改革プラン２０１７」の目標値を次期計画の「経営強化プラン」に引き継ぎ、目標達成に向けて取り組む必要があると考えます。

今後、地方財政法上の資金不足比率が10％以上かつ繰越欠損金が発生した場合は「資金不足等解消計画」を正式に県に提出する必要があるとともに、起債が許可制となります。また、繰越欠損金がある法適用企業において、地方公共団体の財政の健全化に関する法律

上の資金不足比率が経営健全化基準である20%以上となった場合、経営健全化計画を策定し、議会の議決を経た上で県に報告する義務が生じますので、再び、資金不足が発生しないよう、引き続き経営健全化に取り組み、持続可能で安定した病院経営に努めてください。

6　企業債について

令和４年度の企業債については、令和３年度同意分として、地方公共団体金融機構に4,720万円、令和４年度同意分として、南都銀行に4億1,460万円、みなと銀行に1,200万円及び地方公共団体金融機構に4億2,000万円の借入申請を行い、総額で8億9,380万円の借入をしています。しかし、借入後に令和４年度同意分の地方公共団体金融機構4億2,000万円において、本来の借入可能額より2,930万円過大に借入していたことが判明したため、その額を企業債から預り金に振替える会計処理をしています。過大な借入が生じた理由及び再発防止に向けた今後の対策について所管課に確認したところ、「機器取得価格の錯誤、現年度契約で翌年度に納入される機器の混入（契約繰越）及び財源確認の不徹底が理由である。対策としては、総勘定元帳との突合、院内照会文書の照会項目に納期を追加及び補助金や寄附金などの財源の確認の徹底により再発を防止する。」旨の説明を受けましたが、これらの原因は基本的な確認事項の不徹底によるものであると考えます。なお、過大借入分については、事業変更報告書（返還申請）を令和５年７月７日に提出しており、償還指定日である９月２０日に利息とともに繰上償還するとのことでした。

このような個別の取組も重要ですが、本市では、平成２７年度に事務処理ミスが相次いで判明・発生したことを受け、平成２８年度に「宝塚市事務処理ミス防止対応方針」（以下「対応方針」という。）を策定し、事務処理ミスの防止に努めています。日々の業務の中で、職員個人の事務処理ミスは必ず発生するものですが、対応方針に示される、当たり前のことをおざなりにしない、確認は必ず複数回行う、事務処理ミスを自分事とするという方針のもと、内部統制の強化により、組織として事務処理ミスを防止する取組が重要であると考えます。

また、令和４年度同意分について、地方公共団体金融機構から4億2,000万円を企業債として借入しているにもかかわらず、過大な借入分2,930万円を預り金とし、残りの3億9,070万円のみを企業債とすることは、貸借対照表への計上などの会計処理において不適切であると考えます。

組織内における事務処理ミス防止の体制整備を再度徹底し、適正な事務の執行に努めて

ください。

7　施設等の老朽化対策について

昭和５９年５月開院の市立病院は令和５年度で築39年が経過し、近年、施設等の不具合が顕著となってきています。令和４年度の事故及び故障は配管設備の劣化に起因する漏水事故や空調機の不具合等82件発生しており、施設に係る修繕費は9,498万円となっています。そのうち、配管に関連する費用は1,284万円、病棟の空調等に要した費用は3,153万円です。また、平成２７年３月策定の「宝塚市立病院長期保全計画」（以下「長期保全計画」という。）に基づく令和４年度の改修状況については、手術室の冷房増強設備設置や蒸気ボイラー及び井水設備の保全整備を行い、合計5,120万円の工事を実施しています。

今後の各年度別改修予定及び施設保全計画策定の方向性については、「長期保全計画では令和６年度に2億3,000万円、令和７年度に2億270万円の改修を計画していたが、令和５年３月にこれを見直した結果、最新の計画の主な内容としては、20年以上経過している空調関係や屋上防水工事などで、令和６年度の配管工事5億5,000万円を除くと令和６年度から令和８年度の各年度1億3,000万円程度の工事計画となっている。今後の施設保全計画策定の方向性については、現在策定中の経営強化プランにおける病院建替えの時期を目処に、空調等の診療への影響が大きい箇所を中心に必要最低限の投資を行い、建物を維持する計画に修正していく予定である。」旨の説明を受けました。また、医療機器更新計画の策定状況については、「その年度に在籍する医師の専門性や手技の違い、その時点での利用頻度や故障の程度、故障による診療への影響の大きさなどにより更新の優先順位が変動し、使用年数だけで更新時期を判断できないことから、以前から明確な更新計画を作成せず、限られた予算の範囲で、その時点での優先度を総合的に判断し、医療機器等を更新している。」旨の説明を受けました。

長期保全計画は令和５年３月の見直しにより、配管工事についても反映された計画となっています。今後、経営強化プランと関連付けた計画に修正していくとのことですが、医療機器更新計画についても病院経営に大きな影響を及ぼすため、経営強化プランと関連付けた計画の策定が必要であると考えます。また、現在の建物設備の老朽化の状況を踏まえた予防保全の費用も含めたこれらの費用については、経営強化プランにおける収支計画の中に見込んでおくべきものであると考えます。

今後の病院建替えに向けた議論を進めていく際には、これらの費用を反映した収支計画

を踏まえ、早期に検討してください。

第５　むすび

当年度決算は、総収益が 135 億 670 万円、総費用が 129 億 1,973 万円で、差引き 5 億 8,697 万円の当年度純利益(前年度 3 億 6,661 万円の純利益)が生じています。その結果、前年度の繰越利益剰余金は 7 億 3,352 万円あったのが、当年度未処分利益剰余金は 13 億 2,049 万円まで増加しました。

また、令和３年度に発生していた資金不足が解消したことにより、令和４年度の資金不足比率は算定されていません。しかし、これは令和３年度及び令和４年度に締結された「退職手当組合負担金における各会計間の調整に関する変更協定書」に基づき、一般会計から投資返還金として令和３年度に 8 億 3,866 万円、令和４年度に 4 億 5,158 万円が繰り上げて支払われた影響が大きいと考えます。この投資返還金が繰り上げて支払われていなければ、資金不足額は 3 億 9,133 万円、資金不足比率は 3.4%となり、資金不足は解消されていませんでした。

一般会計からの投資返還金が繰り上げて支払われたことにより、今後、毎年度の歳入が 6,451 万円減少すること、また、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行に伴い、令和５年６月以降、コロナ補助金の受入れがなくなることなどから、資金不足を発生させないためには、特に入院収益の確保が必須であると考えます。

令和４年度は、１日当たりの入院患者数が 255.6 人（令和３年度 263.4 人、令和２年度 296.6 人）と減少しましたが、ＤＰＣ入院期間Ⅰ・Ⅱ期（全国平均入院日数以内）の入院期間率が向上したこと等により、入院単価が 68,967 円（令和３年度 64,417 円、令和２年度 59,432 円）と大幅に増加するとともに、入院収益は前年度より 3 億 4,272 万円増加し、65 億 3,551 万円となりました。しかし、令和４年度当初予算において、入院単価 65,000 円の計画に対して、68,967 円と目標を達成しているものの、入院患者数 315 人／日の計画に対し、255.6 人／日と目標を達成することができませんでした。入院患者数において、目標を達成できなかった理由については、新型コロナウイルス感染症患者の受入れや看護師不足による病床休床等によるものであるとのことでありました。新型コロナウイルス感染症の影響による患者数減少は一定やむを得ないと考えますが、入院収益の確保のためには入院患者数を増加させることが必須であると考えます。また、看護師不足による病床休床等による病院事業への影響については、新型コロナウイルス感染症専用病棟への専属看護師の配置等により、病院全体として看護師が不足する状況となった結果、令和４年度において合計 260 日間、４階西病棟 53 床を閉鎖しており、このこ

とによる病院事業への影響額は 8 億 4,677 万円であったとのことでありました。今後の病棟運営については、新型コロナウイルス感染症専用病棟である重点医療機関から一般医療機関に変更したことで、同一病棟で新型コロナウイルス感染症患者及び一般患者を受け入れ、段階的に稼働病床数を増やすことで、入院患者の増加に努める。また、367 床の病床稼働を目指しており、それには 396 人の看護師が必要であるが、令和５年７月１日現在で 35 人不足している状況である。令和５年度の派遣看護師に係る予算も増額しており、派遣看護師の増員により夜勤の看護師不足の解消に努める。さらに、令和６年度採用に向け、新卒 22 人、既卒８人を募集しているとのことでありました。派遣看護師の活用を含め、可能な限り早期に稼働病床が拡大できるよう看護師の確保に取り組み、入院収益の増加に努めてください。

病院事業運営審議会（以下「審議会」という。）の最終開催日が令和３年２月２２日となっていますが、最終開催日から今日までの間に、市立病院の今後のあり方を示した「目指す病院像」の策定等、市立病院として非常に重要な案件があったにも関わらず、審議会に諮ることなく公表されていました。策定時期がコロナ禍であったことから、対面での開催が難しいことは一定理解できますが、書面開催など別の方法で意見を聴く必要があったのではないかと考えます。

令和５年度中には、持続可能な経営基盤の強化に向けて、「目指す病院像」を基に議論し、市立病院における最重要課題である経営改善を目指す「経営強化プラン」が策定されます。また、築 39 年を経過した市立病院の新病院建設候補地決定に向けた準備調査が行われ、各候補地について課題等を整理した報告結果がとりまとめられることとなっています。

市立病院においては、持続可能な経営基盤の強化に向けた取組を着実に実行していくとともに、急性期医療を提供する地域の中核病院として市民が真に必要とする医療を継続して提供できるよう、建替えに向けた議論を早期に進めてください。

病 院 事 業 会 計

（ 資　　料 ）

比 較 損 益 計 算 書 （ 病院事業会計 ）

（単位　円、%）

費用の部						
	令和3年度		令和4年度		対前年度末増減	
科　目	金　額 (B)	構成比	金　額 (B)	構成比	(B)-(A)	(B)/(A)
医業費用	12,037,253,865	95.7	12,342,741,085	95.5	305,487,220	102.5
給与費	6,556,316,436	52.1	6,550,265,511	50.7	△ 6,050,925	99.9
材料費	2,678,013,567	21.3	2,793,758,247	21.6	115,744,680	104.3
経費	2,011,011,735	16.0	2,140,851,203	16.6	129,839,468	106.5
減価償却費	749,391,147	6.0	791,096,462	6.1	41,705,315	105.6
資産減耗費	20,040,697	0.2	37,521,431	0.3	17,480,734	187.2
研究研修費	22,480,283	0.2	29,248,231	0.2	6,767,948	130.1
医業外費用	532,291,706	4.2	574,644,517	4.4	42,352,811	108.0
支払利息及び企業債取扱諸費	61,434,478	0.5	55,405,799	0.4	△ 6,028,679	90.2
長期前払消費税償却額	56,851,393	0.5	61,897,598	0.5	5,046,205	108.9
雑支出	414,005,835	3.3	457,341,120	3.5	43,335,285	110.5
特別損失	14,588,778	0.1	2,352,311	0.0	△ 12,236,467	16.1
固定資産売却損	8,280,000	0.1	0	0.0	△ 8,280,000	皆減
固定資産除却損	731,567	0.0	0	0.0	△ 731,567	皆減
過年度損益修正損	5,577,211	0.0	2,352,311	0.0	△ 3,224,900	42.2
小計	12,584,134,349	100.0	12,919,737,913	100.0	335,603,564	102.7
当年度純利益	366,610,395	－	586,971,428	－	220,361,033	160.1
合計	12,950,744,744	－	13,506,709,341	－	555,964,597	104.3

（単位　円、%）

収益の部						
	令和3年度		令和4年度		対前年度末増減	
科　目	金　額 (A)	構成比	金　額 (B)	構成比	(B)-(A)	(B)/(A)
医業収益	10,763,998,405	83.1	11,213,903,438	83.0	449,905,033	104.2
入院収益	6,192,791,019	47.8	6,535,518,837	48.4	342,727,818	105.5
外来収益	3,996,133,283	30.9	4,072,955,271	30.2	76,821,988	101.9
その他医業収益	575,074,103	4.4	605,429,330	4.5	30,355,227	105.3
医業外収益	2,181,745,910	16.8	2,289,608,841	17.0	107,862,931	104.9
受取利息及び配当金	3,311	0.0	6,702	0.0	3,391	202.4
他会計補助金	364,361,071	2.8	358,143,087	2.7	△ 6,217,984	98.3
他会計負担金	225,476,735	1.7	179,162,630	1.3	△ 46,314,105	79.5
国県補助金	1,001,473,387	7.7	1,078,413,900	8.0	76,940,513	107.7
寄附金	12,534,820	0.1	1,220,442	0.0	△ 11,314,378	9.7
長期前受金戻入	32,878,438	0.3	49,379,603	0.4	16,501,165	150.2
資本費繰入収益	423,719,472	3.3	509,026,592	3.8	85,307,120	120.1
雑収益	615,551	0.0	352,863	0.0	△ 262,688	57.3
その他医業外収益	120,683,125	0.9	113,903,022	0.8	△ 6,780,103	94.4
特別利益	5,000,429	0.0	3,197,062	0.0	△ 1,803,367	63.9
固定資産売却益	2,060,000	0.0	0	0.0	△ 2,060,000	皆減
過年度損益修正益	2,940,429	0.0	3,197,062	0.0	256,633	108.7
合計	12,950,744,744	100.0	13,506,709,341	100.0	555,964,597	104.3

比較貸借対照表（病院事業会計）

（単位　円、%）

資産の部 科目	令和3年度末 金額 (A)	令和3年度末 構成比	令和4年度末 金額 (B)	令和4年度末 構成比	対前年度末増減 (B)-(A)	対前年度末増減 (B)/(A)
固定資産	12,456,110,882	84.9	11,998,853,781	80.1	△ 457,257,101	96.3
有形固定資産	11,458,060,457	78.1	11,449,010,088	76.4	△ 9,050,369	99.9
土地	4,118,742,365	28.1	4,118,742,365	27.5	0	100.0
建物	5,451,720,782	37.1	5,158,808,237	34.4	△ 292,912,545	94.6
構築物	80,169,172	0.5	75,073,180	0.5	△ 5,095,992	93.6
器械備品	1,757,219,905	12.0	2,053,261,479	13.7	296,041,574	116.8
車両	919,500	0.0	919,500	0.0	0	100.0
リース資産	29,022,313	0.2	24,145,327	0.2	△ 4,876,986	83.2
建設仮勘定	1,531,420	0.0	0	0.0	△ 1,531,420	皆減
その他有形固定資産	18,735,000	0.1	18,060,000	0.1	△ 675,000	96.4
無形固定資産	1,487,500	0.0	1,487,500	0.0	0	100.0
電話加入権	1,487,500	0.0	1,487,500	0.0	0	100.0
投資その他の資産	996,562,925	6.8	548,356,193	3.7	△ 448,206,732	55.0
長期未収金	736,967,951	5.0	270,888,085	1.8	△ 466,079,866	36.8
敷金	10,000,000	0.1	10,000,000	0.1	0	100.0
長期前払消費税	249,594,974	1.7	267,468,108	1.8	17,873,134	107.2
流動資産	2,221,200,268	15.1	2,986,648,601	19.9	765,448,333	134.5
現金預金	214,528,561	1.5	499,540,383	3.3	285,011,822	232.9
未収金	1,864,564,430	12.7	2,344,403,931	15.6	479,839,501	125.7
貯蔵品	134,904,240	0.9	139,821,045	0.9	4,916,805	103.6
前払費用	496,907	0.0	496,907	0.0	0	100.0
前払金	6,706,130	0.0	2,386,335	0.0	△ 4,319,795	35.6
合計	14,677,311,150	100.0	14,985,502,382	100.0	308,191,232	102.1

負債・資本の部 科目	令和3年度末 金額 (A)	令和3年度末 構成比	令和4年度末 金額 (B)	令和4年度末 構成比	対前年度末増減 (B)-(A)	対前年度末増減 (B)/(A)
固定負債	6,904,488,068	47.0	6,752,150,577	45.1	△ 152,337,491	97.8
企業債	5,525,638,171	37.6	5,349,890,784	35.7	△ 175,747,387	96.8
建設改良費の財源に充てるための企業債	5,499,705,238	37.5	5,325,928,854	35.5	△ 173,776,384	96.8
その他の企業債	25,932,933	0.2	23,961,930	0.2	△ 1,971,003	92.4
他会計借入金	1,160,000,000	7.9	1,160,000,000	7.7	0	100.0
リース債務	18,290,602	0.1	12,299,685	0.1	△ 5,990,917	67.2
退職給付引当金	200,559,295	1.4	229,960,108	1.5	29,400,813	114.7
流動負債	3,317,170,980	22.6	3,192,498,199	21.3	△ 124,672,781	96.2
企業債	1,007,235,978	6.9	1,040,247,387	6.9	33,011,409	103.3
建設改良費の財源に充てるための企業債	1,005,268,911	6.8	1,038,276,384	6.9	33,007,473	103.3
その他の企業債	1,967,067	0.0	1,971,003	0.0	3,936	100.2
他会計借入金	800,000,000	5.5	0	0.0	△ 800,000,000	皆減
リース債務	5,887,404	0.0	5,990,917	0.0	103,513	101.8
未払金	963,104,229	6.6	1,586,466,281	10.6	623,362,052	164.7
前受金	35,317,808	0.2	39,307,756	0.3	3,989,948	111.3
預り金	99,826,112	0.7	113,605,727	0.8	13,779,615	113.8
引当金	405,799,449	2.8	406,880,131	2.7	1,080,682	100.3
賞与引当金	340,319,360	2.3	341,437,567	2.3	1,118,207	100.3
法定福利費引当金	65,480,089	0.4	65,442,564	0.4	△ 37,525	99.9
繰延収益	349,525,474	2.4	310,966,651	2.1	△ 38,558,823	89.0
長期前受金	1,108,056,121	7.5	1,106,013,609	7.4	△ 2,042,512	99.8
収益化累計額	△ 758,530,647	－	△ 795,046,958	－	△ 36,516,311	－
資本	4,106,126,628	28.0	4,729,886,955	31.6	623,760,327	115.2
資本金	2,816,580,496	19.2	2,816,580,496	18.8	0	100.0
剰余金	1,289,546,132	8.8	1,913,306,459	12.8	623,760,327	148.4
資本剰余金	556,021,632	3.8	592,810,531	4.0	36,788,899	106.6
利益剰余金（△欠損金）	733,524,500	5.0	1,320,495,928	8.8	586,971,428	180.0
合計	14,677,311,150	100.0	14,985,502,382	100.0	308,191,232	102.1

企業債元利償還予定表（病院事業会計）

（単位　円）

償　還　年　度	元　　金	利　　子	元利合計
令和5年度償還予定額	1,040,247,387	49,637,493	1,089,884,880
令和6年度　　〃	971,936,786	42,067,758	1,014,004,544
令和7年度　　〃	868,290,902	35,000,939	903,291,841
令和8年度　　〃	788,195,445	27,882,590	816,078,035
令和9年度　　〃	705,912,752	20,952,685	726,865,437
小　計　　(A)	4,374,583,272	175,541,465	4,550,124,737
令和10～29年度償還予定額　(B)	2,015,554,899	95,393,297	2,110,948,196
償還予定額合計　(A+B)	6,390,138,171	270,934,762	6,661,072,933

財 務 分 析 比 率 比 較 表　（病院事業会計）

	分析項目	算式	比率 3	比率 4	全国平均 3	説明
構成比率	1 固定資産構成比率 (%)	固定資産 / 総資産 ×100	84.9	80.1	68.6	（構成比率は、構成部分の全体に対する関係を表すものです。）総資産に対する固定資産の占める割合であり、これが大であれば資本が固定化の傾向にあります。
	2 固定負債構成比率 (%)	固定負債 / 総資本 ×100	47.0	45.1	48.7	資本総額とこれを構成する固定負債・自己資本の関係を示すもので、固定負債構成比率が小であり、自己資本構成比率が大であるほど経営の安全性は大きいといえます。
	3 自己資本構成比率 (%)	自己資本 / 総資本 ×100	30.4	33.6	38.1	
財務比率	4 固定資産対長期資本比率 (%)	固定資産 / 長期資本 ×100	109.6	101.7	79.1	（財務比率は、貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものです。）固定資産の調達が資本と固定負債の範囲内で行われるべきであるとの立場から、少なくとも100%以下であることが理想とされています。
	5 固定比率 (%)	固定資産 / 自己資本 ×100	279.6	238.0	180.1	固定資産が自己資本によってまかなわれるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下であることが理想とされています。
	6 流動比率 (%)	流動資産 / 流動負債 ×100	67.0	93.6	237.3	１年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、流動性を確保するためには流動資産が流動負債の２倍以上であることが要求されるので、理想比率は200%以上です。
	7 酸性試験比率（当座比率） (%)	現金預金＋（未収金－貸倒引当金） / 流動負債 ×100	62.7	89.1	233.3	流動資産のうち、現金預金及び容易に現金化しうる未収金(当座資産)と流動負債を対比させたもので、100%以上が理想比率とされています。
	8 現金預金比率 (%)	現金預金 / 流動負債 ×100	6.5	15.6	143.2	流動負債に対する現金預金の割合を示し、これは20%以上が理想比率とされています。
回転率	9 自己資本回転率 (回)	医業収益 / 平均自己資本	2.6	2.4	1.6	（回転率は、企業の活動性を示すもので、これらの比率は大きいほど資本が効率的に使われていることを表すものです。）　自己資本の動きを総資本から切り離してみたものです。
	10 固定資産回転率 (回)	医業収益 / 平均固定資産	0.8	0.9	0.8	（固定資産に対する投下資本の効率を測定するものです。）医業収益と設備資産に投下された資本との関係で、設備利用の適否をみるためのものです。
	11 減価償却率 (%)	当年度減価償却費 / 減価償却資産 ×100	9.3	9.7	8.0	減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、固定資産に投下された資本の回収状況をみるためのものです。
	12 流動資産回転率 (回)	医業収益 / 平均流動資産	4.8	4.3	1.9	現金預金、貯蔵品、未収金回転率等を包括するものであり、これらの回転率が高くなればそれに応じて高くなるものです。
	13 未収金回転率 (回)	医業収益 / 平均未収金	5.8	5.3	4.7	企業の取引量である医業収益と未収金との関係で、未収金に固定する金額の適否を測定するものです。
収益率	14 総資本利益率 (%)	当年度経常利益 / 平均総資本 ×100	2.5	4.0	4.8	企業に投下された資本の総額とそれによってもたらされた利益とを比較したものです。
	15 総収支比率 (%)	総収益 / 総費用 ×100	102.9	104.5	106.6	総収益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものです。
	16 経常収支比率 (%)	経常収益 / 経常費用 ×100	103.0	104.5	106.5	経常的な収益と費用を対比したものであり、経常収益と経常費用の相対的な関連を表すものです。
	17 医業収支比率 (%)	医業収益 / 医業費用 ×100	89.4	90.9	88.0	業務活動によりもたらされた医業収益とそれに要した医業費用を対比して、営業活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるものです。

	分析項目	算式	比率 3	比率 4	全国平均 3	説明
その他	18 利子負担率 (%)	支払利息＋企業債取扱諸費 / 企業債等 ×100	0.7	0.7	1.3	支払利息と企業債等との割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息の利率の高低を示します。この利率の低い程低廉の資金を使用していることになります。
	19 企業債償還元金対減価償却費比率 (%)	企業債償還元金 / 当年度減価償却費－長期前受金戻入 ×100	116.5	135.8	148.5	企業債償還元金とその償還財源である減価償却費との割合で企業債償還能力を表すものです。この率が低いほど償還能力は高くなります。
	20 企業債償還元金対料金収入比率 (%)	企業債償還元金 / 料金収入 ×100	8.2	9.5	9.2	料金収入に対する企業債償還元金の占める割合を表すものです。
	21 企業債利息対料金収入比率 (%)	企業債利息 / 料金収入 ×100	0.6	0.5	1.1	料金収入に対する企業債利息の占める割合を表すものです。
	22 企業債元利償還金対料金収入比率 (%)	企業債元利償還金 / 料金収入 ×100	8.8	10.0	10.3	料金収入に対する企業債元利償還金の占める割合を表すものです。
	23 職員給与費対料金収入比率 (%)	職員給与費 / 料金収入 ×100	61.9	61.5	62.3	職員給与費の料金収入に占める割合を表すものです。この比率が高ければ高いほど固定経費が増嵩する結果となり、財政の流動性が失われて経営が悪化することを意味するものです。
	24 経常損失比率 (%)	経常損失 / 医業収益 ×100	－	－	0.7	医業収益に対して、いくらの経常損失があるかを示します。
	25 累積欠損金比率 (%)	累積欠損金 / 医業収益 ×100	－	－	50.6	医業収益に対して、いくらの累積欠損金（当年度未処理欠損金）があるかを示します。
	26 不良債務比率 (%)	不良債務＋翌年度繰越財源 / 医業収益 ×100	0.8	－	0.2	医業収益に対して、いくらの不良債務があるかを示します。

※ (1) 総資産 ＝ 固定資産＋流動資産＋繰延資産
(2) 総資本 ＝ 負債資本合計
(3) 総収益 ＝ 医業収益＋医業外収益＋特別利益
(4) 総費用 ＝ 医業費用＋医業外費用＋特別損失
(5) 経常収益 ＝ 医業収益＋医業外収益
(6) 経常費用 ＝ 医業費用＋医業外費用
(7) 経常利益（又は経常損失）＝ 経常収益－経常費用
(8) 自己資本 ＝ 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益
(9) 長期資本 ＝ 資本金+剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益
(10) 減価償却資産 ＝ 期末減価償却資産＋当年度減価償却費
(11) 負債 ＝ 建設改良の財源に充てるための企業債・長期借入金＋その他の企業債・長期借入金＋一時借入金＋リース債務
(12) 不良債務 ＝ 流動負債－流動資産－建設改良費等の財源に充てた企業債・長期借入金－ＰＦＩ法に基づく事業に係る建設事業費等のリース債務
(13) 平均 ＝ （期首＋期末） ÷ ２